

研究所だより

教育三笠

第199号 発行/三笠市教育研究所

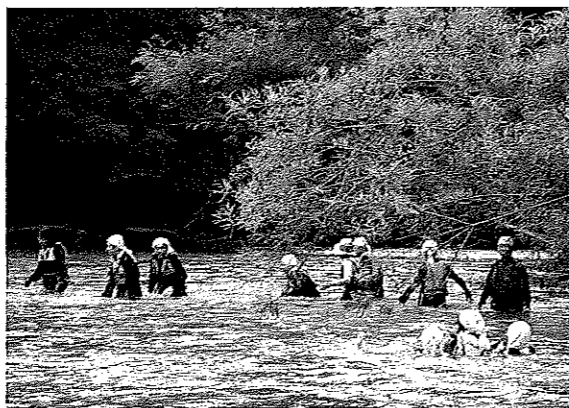
三笠中学校



3年生/学校祭



2年生/宿泊研修



1年生/川の学習



参加者全員が感動した大作品を背景に



栗原憲一主任研究員による説明



山崎ワインと山崎太地様

川俣 正 「三笠プロジェクト」
三笠フレンドズの事務局長である逢坂康雄様にご案内いただきました。体育館全体にスケールの大きな炭鉱町を再現しています。昨年、三笠小学校の児童も学習し炭鉱長屋の一部を製作しています。
約1500個の長屋は教育大学学生の粘り強い取り組みの成果でもあるとのことでした。
山の内部には、夜の炭鉱町が再現されています。灯りは一軒一軒の生活そのもので、実に感動的な光景です。(連絡先:教育委員会)

②三笠市博物館…三笠一億年の歴史…栗原研究員のご説明により、ジオパークを含め博物館内部の展示物について研修しました。
ジオパークは、ユネスコプログラムとして5年ごとに認定確認があり、今後教育活動との関連を深めていくことが重要視されるということです。
開拓の歴史と囚人、炭鉱のくらしなど、説明とともに確認することができ、今後の学習に活用できる内容は、日常の学習活動では、日程が合えば、研究員のご案内も可能とのことです。
現在は、生きたオウムガイが展示されています。

③三笠モダンアートミュージアム
旧幌内中学校にある、ミュージアムには統合前の各小中学校の記念の品々が整理されています。
また、三笠出身の芸術家の作品も多数展示されており、時間をかけてゆっくり学ぶことのできる施設です。
④山崎ワイナリー
三笠産布山を過ぎると、一面のぶどう畑が広がります。この地で、4代にわたり農業経営されている山崎ワイナリー。今日に至るまでのご苦労や、この地を愛し夢を描きつづける想いを、山崎太地様にお話いただきました。消費者と生産者がふれあって、見て、直接購入できる関係を大切にしていることや、ご自身のワイン造りに対する考え方に感銘しました。

編集後記

●ご協力くださいました皆様にご心より感謝申し上げます。

ワインの香り漂うホールで、参加者は生き方そのものを学ぶ機会をいただきました。すでに、市内の学校では、地域学習として展開しています。雨でぶどう畑の見学ができず残念でしたが、ゆっくりお話を聞かせていただきました。

今年も暑い夏でした。雨が少なく農作物の生育はどうなのだろうかと思っています。

今号の『教育三笠』では、今年度の「岡山萱野小中一貫教育」の取り組みの様子と、8月5日に実施した「地域素材を巡るin三笠」の様子について掲載しました。三笠市の教育の現状を知る一助になれば幸いです。

次号は「三笠小中一貫教育」の取り組みの様子を中心に伝える予定です。引き続き教育研究所へのご協力をお願いいたします。

三笠市教育研究所報
発行日 平成26年9月26日
発行所 三笠市教育研究所
代表 松井 牧子
三笠市若草町404
電話 212197番
印刷所 中央印刷株式会社

岡山・萱野小中一貫教育の様子

1. 研究の概要

【研究主題】

「自ら学び、考え、行動できる」

人間性豊かな児童生徒の育成
〔平成26年度～平成28年度の3カ年計画の1年次〕

「一貫教育で育てていきたい子どもの姿」
確かな学びのもと、豊かな発想や表現ができる

個性を生かしつつ、互いの良さを認め、高め合うことができる

自ら考え、行動できる

【研究主題設定の理由】

平成17年度にスタートした岡山・萱野小中一貫教育であるが、昨年度までに9年が経過した。この間、育てていきたい子どもの姿の具現化に向けて、「国際科」「地域科」をはじめ各教科における教育課程の再編成・実践・検証、「系統性ある生活指導」の確立などに取り組み、中学校へのスムーズな移行や豊かな心の育成など、大きな成果が得られた。また、「合同・交換」授業の実施によって、教員側に多くのメリットがあることについても確認されたが、その一方で、児童生徒側のメリット(教育的効果)も整理しながら実践・改善を目指すべきだという指摘もあった。

そこで、これまでの成果をさらに積み上げ、残された課題を少しでも解決する

ために、今年度からの第4期3カ年計画においては、「自ら学び、考え、行動できる人間性豊かな児童生徒の育成」という研究主題を継続する中で、「育てていきたい子どもの姿」の具現化を目指しながら、これまで以上に児童生徒の変容をねらった研修活動を進めていくこととなった。

2. 本年度の研究について

【3年次計画の方向性】

◆国際科部会

岡山・萱野小中一貫教育の柱として、開始時より研究が行われてきた。これまでの様々な取り組みにより、児童生徒の意欲・関心は高く、中学校英語科にスムーズに移行されていると考える。ただ、国際科のカリキュラムについては、小学校で改善に向けた取り組みを少しずつ進めていく予定である。

◆本年度の部会研究課題

▽カリキュラムに位置づけられた「小4・中2の合同授業」「小1・2の合同授業」についての実践交流、反省と改善

◆地域科部会

岡山・萱野小中一貫教育開始時より、「新教科」として研究が行われてきた。昨年度のジオパーク認定、中学校地域科指導内容の変更など、整理・改編の必要性

さらなるステップアップに向けて」で出されている課題を整理し、実施に向けて検討するものと、物理的に実施不可能なものに仕分けていく。

【本年度の部会研究課題】

▽PTA組織の具体的活動、両校行事へのPTA協力体制整備

▽体験授業日の部活動見学実施

▽小6による長期休業中の部活動体験入部の検討・実施

▽小学校スポーツ活動への中学校教員の参加検討・実施

▽その他、条件整備に関わる検討

【交換授業・合同授業】

「交換授業」「合同授業」のおさえ

①児童に中学校進学への期待や憧れを持たせ、進学や学習意欲の増大(中1ギャップ解消の1つ)が期待できる。

②生徒自身が日常の学習姿勢を振り返るようになり、学力の向上と自尊感情(自信)の回復を期待できる。

◆交換授業

①学びの連続性を保つために、教員が児童生徒の理解を深める事ができる。

②教職員が、9年間の児童生徒の成育状況を把握する事ができる。

③児童生徒に、小中教員の人柄、指導法等を体感させる事ができる。また、児童の、中学校進学への不安感を軽減する事ができる。

④中学校教員の専門性を生かした発展的な授業を展開し、児童との信頼関係を築くことができる。

⑤指導を通して、各教科の学習内容の系

統性を具体的に考える機会とする事ができる。

⑥指導法について相互に学びあい、指導技術を高める事ができる。

⑦児童生徒にとって、教科や学習内容に対する興味関心が高まり、よりスムーズな学習内容の理解や定着を図ることができる。

⑧児童生徒にとり、音の重なりと響き

▽全児童生徒…10月…音楽発表会に向けて

▽小3、4と中2…11月…音の重なり

◆算数・数学科(交換授業)

▽小6…10月…角柱・円柱の体積

▽小5…11月…割合

◆理科(交換授業)

▽小5…12月…電流が生み出す力

▽小6…12月…電流による発熱

◆国際科(英語科)(合同授業)

▽小4と中3…11月…生徒による英語授業

◆小中相互参観

小中の教員ができるだけ多くの児童生徒の名前を覚え、「児童生徒の実態変化把握」を進めていけるよう、各学期一回、部会研究授業とは別に小中相互参観日を設ける。

が高い。また、総合的な学習の時間と地域科との関係整理や小中間での地域科の連携など、課題は大きい。第4期3カ年研究の中で整理・改編・充実を目指していく。

◆本年度の部会研究課題

▽総合的な学習の時間と地域科との関係整理

▽中学校地域科変更部分についての整理

▽小学校5年生時数・内容検討

▽地域科実践交流

▽ジオパーク構想と副読本の活用について

◆教科部会

これまで、「従来教科」(国語・算数数学・理科・社会・音楽・図工美術・体育・技術家庭)として研究にかけてきた時間の違いはあるものの、小中の系統性を持った指導の研究が行われてきた。平成24年度から「合同・交換」授業が始まり、教員側に多くのメリットがあることについて確認されたが、児童生徒側のメリットは客観的には整理されていない。教育課程に位置づけられた合同交換授業を今後も継続しながら、児童生徒側のメリットの整理、合同交換授業未実施教科の実施検討、小中教員のT.Tの役割等を中心に研究を行う。

◆本年度の部会研究課題

今年度からは、教科単独で部会を設定すると所属する教員の数が少なくなり、話し合いも深まらないことから、複数教科を合わせた「教科部会」として行う。

◆本年度の部会研究課題

▽算数・数学・体育における交換授業の実践検証

(1)学期実施済
▽萱野中…6月18日・19日・20日
▽岡山小…6月11日・12日・13日
(2)学期※仮日程
▽萱野中…11月11日・12日・13日
▽岡山小…11月5日・6日・7日
(3)学期※仮日程
▽萱野中…1月21日・22日・23日
▽岡山小…1月28日・29日・30日

【小中相互参観日とは】

▽指導案作成も事後反省も行わず、日常の授業風景・児童生徒の様子を参観するだけとする。
▽授業者は児童生徒の座席名簿のみ用意し、参観者は可能な限り児童生徒名を覚えられるようにしたい。
▽小学校は、1学期(低学年)・2学期(中学年)・3学期(高学年)の公開日を設定する。中学校教員が空き時間に来やすいよう、公開日は各学期3日間(午前中フリー)とする。
▽中学校は、各学期3日間(2校時のみ)の設定とし、全学年を公開する。
▽仮日程の時期が近くなったら両校の研修担当者で日程調整をし、互いに無理なく交流できるようにする。



小中合同運動会応援合戦の練習風景

『地域の学習素材を巡る旅 in 三笠』

8月5日(火)実施

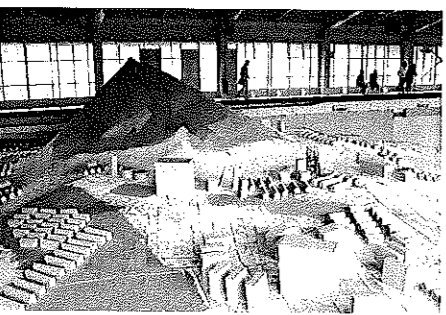
昨年に続き、三笠市の教職員を対象に研究所で企画した地域巡りを実施しました。

地域学習を効果的に展開するためには、特に教師自身が三笠の地域の魅力や歴史を理解することが大切であることから、今年度は、幌内地区の炭鉱遺産巡りを中心に計画しました。

しかし、当日は豪雨の天候となり、急遽屋内施設研修に変更しました。

①旧三笠市立美園小学校体育館

三笠市出身の美術家・川俣正によるアートプロジェクト
かつて炭鉱で栄えた町の風景をモチーフとしたインスタレーションを制作
～三笠フレンズ記載より～



体育館全体のアートプロジェクト